

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伸びる学校(教育力) No.1 笑顔のある学校(安心安全) No.1 親しまれる学校(地域交流) No.1

- | | |
|---------------------|---|
| 1.「未来につながる確かな学力」 | (未来につながる確かな学力を育成し、さらなる高みの希望進路を実現する) |
| 2.「安心・安全の学び舎」づくり | (他者と尊重しあう人権意識を醸成し、多くの仲間がいる安心・安全の学校をつくる) |
| 3.「西高コミュニティー」の充実と発展 | (地域と共に育つ西高生、地域交流 NO1 を誇る堺西高) |

2 中期的目標

1. 未来につながる確かな学力を育成しさらなる高みの希望進路を実現する

- (1) 多様な希望進路実現(理型(理系、看護医療系)、文型、体育・芸術表現創造コース)に向けて、教職員が一体となり組織的に取り組む。
- ア. 主体的・対話的で深い学びに向けてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を広める。(PC・プロジェクター等ICTを活用した授業の推進)
- イ. 基礎学力重視の補習、進学講習をさらに充実させるとともに進学意識を高め、3年生の勉強合宿への参加数増加を図る。
- ウ. 1・2年で学力生活実態調査を導入しデータに基づく学力診断と的確な進路指導を実施する。
- エ. 「学習サポート委員会」で生徒目線の学力向上と進路実現を推進する(出前授業等による公務員試験講座、卒業生による定期考査に向けての質問会、ネットを用いた動画授業の効果的活用等)
- オ. コース別の外部講師による講演会を実施し、生徒のモチベーションを多面的に刺激し、希望進路の実現をサポートする。
- カ. 「アートスタジオ」をさらに質的に充実させ、組織的な取り組みとして発展させる。(芸術コース・文化クラブの生徒が人前で発表することにより、表現力・創造力をさらに磨く機会とする)。
- キ. 生徒に向き合う時間を創出するため、また「働き方改革」からの観点から会議の効率化(資料の事前配布、時間設定)をめざす。
- ※国公立・難関私立大学合格者10名以上、センター試験受験者30名、第1志望校合格者80%以上、学校斡旋による就職内定率100%維持
- (2) 弛まぬ授業改善により興味・関心を抱かせる魅力ある授業をめざす。
- ア. ①主体的・対話的で深い学びにつながるアクティブ・ラーニングにより、「知識、技能」のみならず、「思考力、判断力、表現力」を養う授業を実践する。
- ②伝わる授業＝ユニバーサルデザインを取り入れた授業により理解度を向上させる。
- イ. 年2回の公開授業を実施し、全員参加の研究授業を充実させ教科を超えて授業見学を行う。(相互授業見学：年4回)
- ウ. 英語に親しみ楽しむ観点を取り入れた4技能を高める授業に取り組む。併せて英検受験を奨励し、英語の技能を向上させる。
- エ. ICTを活用した授業をさらに推進し生徒の授業に対する肯定的評価を高める。(アクティブ・ラーニング型授業の推進・ICT活用授業の実践)
- オ. 授業アンケートをさらに活用して授業の改善点を確認し、積極的に授業力を向上する。(授業アンケートの全教員平均評定の向上)
- ※授業アンケートの教員平均評定の向上 3.16以上をめざす。(H28:3.14→H29:3.13)
- ※学校教育自己診断アンケート(生徒用)「教え方を工夫した授業」の肯定的評価55%以上をめざす。(H28:51.0%→H29:51.8)

2. 生徒が安心して学べる安心・安全の学び舎づくり

- (1) 課題を抱える生徒・要配慮生徒を組織的に支援する。
- ア. 教育相談委員会と学年団が連携し、担任が適切に課題のある生徒に対応できるよう情報を共有し学校全体で最善の支援を行う。
- イ. SC(スクールカウンセラー)と連携を密にして、不登校気味の生徒や、こころに課題を抱える生徒の対応にあたる。また研修等を通してアドバイザー機能を高め、不登校の未然防止、ドロップアウトの防止につなげる。
- ウ. 教職員一人ひとりがアンテナを高く掲げ「いじめ・体罰」に関する感性を高め、万一、いじめを認識したり、生徒から訴え等があった場合、速やかに組織対応を行う。
- エ. 教育相談室を充実させ、相談者やその他課題のある生徒にとって安らぎの場を提供する。
- ※引き続き、いじめ体罰「0」の学校を維持・発展させる。
- (2) 仲間づくりを支援する
- ア. 「西高祭」など学校行事をさらに活性化することにより、仲間意識・協調性の向上を図り高校生活に充実感を持たせる。
- イ. クラブ加入率を向上させ、帰属意識を高めるとともに学校の活性化を図る。
- ※学校教育自己診断アンケート(生徒用)の「学校行事に積極的に関わっている」肯定的な意見70%をめざす(H28:69.7%→H29:69.5%)
- ※3年生引退前のクラブ加入率70%を維持(H28:65%→H29:70%)
- (3) 人権意識の醸成
- 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、同和問題、男女平等、障がい者、在日外国人に係る人権問題をはじめ、様々な人権問題の解決をめざした教育を人権教育として総合的に推進するとともに、全ての教職員が自らの人権意識を絶えず見つめ直しつつ教育活動を行うようにする。

3. 地域と共に育ち活躍する「西高コミュニティーの充実」

- (1) 開かれたクラブ活動、学校行事で一層の地域交流を行う
- ア. 中学生を招いた大会である「西高カップ(女子ソフトテニス、サッカー、女子バレー)」を継続し、地元中学校との連携をさらに深める。
- イ. 泉北高等支援学校との年2回の授業交流を継続する。
- ※西高カップ参加者については、2020年度には1600名をめざし、泉北高等支援学校との授業交流については、交流方法のさらなる開発を行う。
- (2) 地域貢献活動やボランティア活動を推進する
- ア. 「美化運動」や「あいさつ運動」を実施する。
- イ. クラブ活動や生徒会による地域行事(南区や町会主催のイベント)への参加やボランティア活動を奨励する。
- ウ. 地域の一員として通学時の交通ルール順守はもちろん、礼儀、服装、遅刻厳禁など規律遵守の重要性を説き、西高生としてのプライドを自覚させる。
- (3) 西高の取り組みを学校HP、学校説明会、中学校訪問、地域交流等を通じて広報し、広く西高の魅力を地域に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【回収率】 今年の回収率は、生徒 98.1%、保護者 76.7%で例年並みだったが、教員は対象者 57 名中 56 名が提出して 98.2%となり、昨年の 89.8%を大きく上回った。保護者の意見を幅広く知るために提出率をあげる工夫を検討したい。</p> <p>【学校生活全般】 「学校が楽しい(生徒)」の肯定的評価は 78.4%と昨年より微減した。一方「学校が楽しいと言っている(保護者)」の肯定的評価は 71.4%で-4.5 ポイントとなり、昨年よりやや厳しい評価をいただいた。高ポイントで推移している項目においても昨年より減少に転じている項目については、原因を追究し改善していく必要がある。 生徒は部活動が盛んと思っているが、保護者の意見で「部活動を積極的にすすめている」が 73.8%で-3.2 ポイント。クラブ活動のあり方で保護者の一部には不満がありそうである。来年度から国・府の通達により、運動部活動に係る活動方針が大きな転換期を迎える。記述欄にも様々な意見があったが、理解の得られる活動方針を立てていきたい。 「教育方針をわかりやすく伝えている(保護者)」65.2%、「学校の教育方針に共感できる(保護者)」70.5%でトータルとしての学校生活に関しては、概ね保護者の理解を得られているようである。</p> <p>【学習指導等】 「宿題をきちんと行っている(生徒)」が 68.5%であるが、「予習・復習等を行っている(生徒)」が 25.3%、自宅家庭学習は、30 分～0 分が 62.0%である。宿題はやるものの自発的な学習や発展的な取り組みはできていないのが現状である。進路行事や LHR の活用だけでは不十分と判断してきたが、来年度から導入される「総合的な探究の時間」を有効活用し、生徒の発達段階に応じて教科横断的に行うプログラムの開発に取り組む予定である。更なるアイデア、工夫、努力が必要である。</p> <p>【生活指導等】 昨年同様、生活指導における保護者および生徒の肯定的評価はそれぞれ 69.1%、38.9%と乖離している。生徒は厳しい指導を嫌がる傾向にあるが、保護者としては厳しめの指導やしつけを期待されている方が多いようである。一方、厳しすぎると判断される保護者も散見されるが、現在の指導方針は堅持し理解してもらえよう努めていきたい。当然生徒にも納得できるような説諭をして指導を継続していく。</p> <p>【自由記述欄から】 今年度は例年よりも大きな地震、記録的大雨、強い台風が重なり、学校としての対応が後手になったところは否めない。その結果、保護者からも生徒からも「もっと迅速な判断をしてほしい」等の厳しい意見が多かった。災害対応についてはさらに検討を加え、迅速に対応できるようにする。 クラブ活動のあり方については、活動をしない日を作してほしいという意見が生徒・保護者とも多くあった。一方、西高の魅力と強みはクラブ活動で強くするため今まで通り活動したいという意見もあり、二極化している。スポーツ庁発出の「運動部活動に係る活動方針」の範囲の中で、学習との両立といかに練習の効率性を追求するかを検討し、生徒、保護者に対して本校の活動方針を導き出さなければならない。 「トイレが古い、きたない」という指摘は、昨年 3 月に約半数のトイレをリニューアルしたせいか幾分か減少したものの、引き続き「古くてきたない所がある。」という指摘もあった。残り半数のリニューアルは、大阪府の予算の関係で近年中には出来ないと考えられるので清掃をこまめに行っていく。 今年度も盗難事案は完全にはなくなっておらず、保護者から厳しい意見をいただいた。貴重品管理の徹底を促してはいるが、自己管理を怠り、無防備な状態で盗難にあう生徒がいた。学校としては、防犯カメラの設置、巡回当番を設けるなど可能な限りの対応してきたが、万全ではないことを認識している。今後も継続して防犯意識を高め、必要に応じて警察とも連携をとりながら、盗難事案に取り組む必要がある。</p> <p>【学校運営】 肯定的評価が高いものとして教育活動の特色がある。生徒の実態をふまえた指導、学習指導の工夫、教育相談体制の整備、学校行事の工夫、人権尊重に基づいた指導、などがあげられ今後も高い水準を堅持していきたい。一方で教職員の意見反映や校内人事については、教職員間でさまざまな意見があり、コンセンサスに至るには時間がかかる。与えられた状況の中で最大限の力を発揮していかなければならない現状があることを踏まえたうえで、教職員のモチベーションを高めるために生産的な意見交換の場を増やしていきたい。</p>	<p>【第 1 回学校運営協議会(平成 30 年 6 月 27 日)】</p> <p>○夏期勉強合宿 ・桃山学院大学での勉強合宿は保護者にとっては有りがたい取組みである。今年度は昨年より 10 名も参加者が増え、進路実現に向けての意識が高まりつつあるといえる。未来につながる確かな学力をつけるために、他にどんな取組みが考えられるかについて、保護者の意見を吸い上げながら、勉強合宿については、費用対効果や進路実績との相関関係などを検証し、継続してほしい。</p> <p>○進路指導 ・進路希望については、4 年制大学、専門学校がそれぞれ 40 パーセント程度、短大と就職がそれぞれ 10 パーセント程度で、AO 入試、指定校推薦、公募推薦が圧倒的に多く、早期に進路先を決めたいという安定志向が見られるが、ぎりぎりまで勉強して、一つでも高い目標に近づけるような取組みもあってはいいのでは。</p> <p>○生活指導 ・交通事故が増加傾向にある。命の大切さを普段の集会や警察官による研修等で指導されていると思うが、今年度、行う予定のスケアードストレートは効果が大きい期待される手法である。事前事後の交通安全学習をしっかり行い、有効な研修にしてほしい。また西高のみならず、近隣の中学生や住民を招いて地域として実施してもいいのではないかと。</p> <p>○地域とともに育つ西高生「西高コミュニティの充実」 ・8 回目を迎えるアートスタジオは近隣の住民は、毎回楽しみしている。芸術コースや音楽に関係するクラブだけでなく、体育コースの発表も何らかの形であれば、さらに盛り上がるのではないかと。 ・近隣の中学校を招いて開催する「西高カップ(ソフトテニス、サッカー、バレーボール)」の運営は毎回大変だと思うが、中学生にとっては、高校のグラウンドやコートで試合ができることが大切であり、スポーツを通じて高校生と交流することにも大きな意義がある。今後も西高カップを通じて、西高の広報活動にもうまくつなげてほしい。 ・夏祭りやサマーフェスタへの放送部やダンス部等の出演、ボランティアとして吹奏楽部や軽音楽部が老人ホームで演奏会を行ったりするなど、地域に密着した活動をしていることに近隣住民の町内連合会としても感謝している。今後とも継続して積極的に地域貢献に努めていただきたい。</p> <p>【第 2 回学校運営協議会(平成 30 年 11 月 8 日)】</p> <p>研究授業の見学 3 年英語【ディスカッションを含めたアクティブ・ラーニング教授法】 ・比較的英語を話す力はあるように感じたものの、プレゼンではセリフを読んでいるようだったので、事前に朗読にならないように読む練習があれば良かった。プレゼンなので聞いている人の目を見て自分の言葉で話す指導が必要ではないかと。 ・原稿は一人一枚持っておくべき。質問やその答えも事前に用意するのではなく、簡単な単語を並べるだけでもいいので、間違ってもいいから自分の言葉で言わせてほしい。 ・最終目標は間違ってもいいから海外で堂々と英語が話せるようになることである。教室の英語ではなく、外に出た実用的な英語をめざしてほしい。 ・内容は一時間にしたら詰め込みすぎじゃないでしょうか？前後の授業の兼ね合いでこうなったかも知れないが、一時間で内容ではちょっとしんどかったように感じる。 ・先生と生徒の関係や良好で、生徒はのびのびしている。発問で答えが出ないときこそ全体で考えるチャンスなのでまた機会があれば工夫してほしい。 ・アクティブ・ラーニングをするのであれば、仕組みを理解し準備をしっかりしないと効果はでにくい。必要に応じて机を並べて一緒に考えさせるのも良い。創意工夫をしながら、改良を重ねながら、先生のめざす授業はこうやというのを生徒に発信していったらどうか。</p> <p>【第 3 回学校運営協議会(平成 31 年 3 月 26 日)】</p> <p>・今年度は、私立の 4 年制大学の定員の厳格化により、合格者数がどの高校においても厳しいものになったと聞いているが、この傾向はまだ続くと予想される。まだ行先が決定していない生徒への指導についても丁寧に行ってほしい。 ・「働き方改革」が叫ばれている中、休職をしている教員が複数いるが、教員の時間外勤務状態を精査し、メンタルヘルスの観点から業務の平準化、効率化を一層図ってほしい。 ・学校教育自己診断の質問項目について、経年変化を見ながら生徒の気質の変化や保護者の意識の変化などを読み取り、今後の教育活動に生かしてほしい。 ・今年度は、台風 21 号、大阪北部地震など大規模な自然災害に見舞われ、大阪の小中学校においては、危機管理の観点から携帯電話の持ち込みが緩和された。西高においても継続してネット社会の負の部分もしっかり生徒に認識させるとともに、情報機器との適切な向き合い方を指導されたい。 ・H31 経営計画に「道德教育の推進」が新たに盛り込まれているが、授業、行事、部活動など全ての教育活動において、生徒にあたりまえのことをきちんとやらせる意識の醸成を教員間で図られたい。 ・教科で指導内容や指導方法についての情報を交換したり共有したりすることで、「本校の教育計画・教育課題や指導内容について---」の項目の数値があがるのではないかと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 未来につながる確かな学力の育成と多様な進路の実現	<p>(1) 多様な進路実現に向けて教職員が組織的に取り組む</p> <p>(2) 弛まぬ授業改善により興味関心を抱かせる魅力ある授業をめざす</p> <p>(3) 英検・漢検をはじめとする資格取得を奨励する</p> <p>(4) 違いを認め合う人権意識を養成する</p>	<p>ア) 学力生活実態調査を全校的に導入し、外部データによる学力判断進路指導を行う。</p> <p>イ) 保護者に対するさらなる進路情報の提供を活性化し、学校・家庭が一体となった進路指導を推進する。</p> <p>ウ) 進学講習の受験サポート体制を見直しさらに充実させる。</p> <p>エ) ベテラン教員のノウハウの継承</p> <p>ア) 学校教育自己診断、その他のアンケート等から授業に関ニーズを把握し、アクティブ・ラーニング・ICT を活用した授業を広く推進する。</p> <p>ア) 後援会による補助制度を設け、英検、漢検、情報処理検定を奨励し、段階的に上位の級に挑戦させる。</p> <p>イ) 第1志望の進路実現に向け学校をあげて支援を行う。</p> <p>ア) 生徒向け人権講演会等で生徒自身の人権意識を向上し共に学び・共に育つ心を磨く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自学自習時間の増加を図る 学校教育自己診断アンケート(生徒用) 2h以上 構成比10%以上 (H29:9.4%) 1h~2h // 10%以上 (H29:9.6%) ・ 「将来に向けた進路・職業に適切な指導が行われている」の肯定的評価70%をめざす 学校教育自己診断アンケート(保護者用) (H29:64.8%) ・ 授業アンケートの全教員平均評定3.16以上(H29:3.13,) ・ 「工夫された授業」の肯定的評価を55%以上 学校教育自己診断アンケート(生徒用) (H29:51.8%) ・ 教員相互の授業見学 年4回 (H29:2回) ・ 英検2級・準2級合格者20名以上をめざす (H29:20名, H28:19名) ・ 漢検準2級以上25名 (H29:19名) ・ ワーク検定準2級以上5名 (H29:3名) ・ 情報処理検定準2級以上35名 (H29:29名) ・ センター受験30名以上 (H29:29名) ・ 学校幹旋による就職内定率100% ・ 身近な差別を考える取り組みの実施、人権講演会肯定率80%以上 	<p>(1) 自学自習時間 ・ 2h以上 8.2% 1h~2h 9.6% とやや下げた。(△)</p> <p>・ 「将来に向けた進路・職業に適切な指導が---」の肯定的評価64.4% (○) 昨年度維持で目標には届かなかった。</p> <p>(2) ・ 授業アンケートの全教員平均評定3.11と昨年度よりやや下げた。(△)</p> <p>・ 「工夫された授業」の肯定的評価47.5%と昨年度よりやや下げた。(△)</p> <p>・ 教員相互による授業見学について年4回の機会を設け、成果や課題について協議した。(○)</p> <p>(3) ・ 英検準2級以上合格者11名 ・ 漢検準2級以上合格者11名 (△) ・ ワーク検定準2級以上合格者0名 (△)</p> <p>・ 情報処理検定準2級以上合格者24名 うち初段1名は特筆すべき。(○)</p> <p>・ 推薦入試やAOで決める生徒が多くセンター受験者は8名にとどまった。(△)</p> <p>(4) ・ 学校幹旋による就職内定率100% (◎) ・ 今年度の人権講演会は、わかりやすく生徒の心に響く内容であった。肯定率85% (○)</p>
2 生徒が安心して学べる安心安全の学び舎づくり	<p>(1) 課題を抱える生徒・要配慮生徒を組織的に支援する</p> <p>(2) 仲間づくりを支援する</p> <p>(3) 情報リテラシーの育成</p>	<p>ア) 教育相談委員会と学年団が連携し、担任が適切に課題のある生徒に対応できるよう情報を共有し学校全体で最善の支援を行う。</p> <p>ア) 教育相談室の更なる充実と整備</p> <p>イ) 学校行事、クラブ活動のさらなる活性化</p> <p>ア) 情報社会における正しい判断や望ましい態度、セキュリティの知識等情報モラルの育成に努める。</p> <p>イ) SNS 等による「いじめや問題行動」を撲滅する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断アンケート(生徒用) 「学校が楽しい」の肯定的評価80%以上の維持 (H29:80.3%) ・ 「保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価45%以上をめざす (H29:36.9%) ・ 教育相談室の整備充実を行い安心できる居場所づくりを行う ・ 部活動入部率65%以上を維持する ・ SNS の正しい使用を徹底し SNS で加害者・被害者「0」の維持 	<p>(1) ・ 「学校が楽しい」の肯定的評価78.4% (△)</p> <p>・ 「保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価37.4% (△)</p> <p>(2) ・ 教育相談委員会を7回、ケース会議を4回開き、個々の生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、校内体制を強化した。(◎)</p> <p>・ 部活動入部率65%を堅持 (○)</p> <p>(3) ・ 学年集会やLHRを用いて、SNSによる被害例等を示し、情報リテラシーの徹底を行い、加害者、被害者0 (◎)</p>
3 地域と共に育つ西高生 「西高」コミュニティの充実	<p>(1) 開かれたクラブ活動・学校行事で一層の地域交流を図る</p> <p>(2) 地域貢献ボランティア活動を推進する</p> <p>(3) 異校種連携の一層の充実と発展を行う</p> <p>(4) 西高生徒の地域における評判を高める</p>	<p>ア) クラブ活動「西高カップ」の開催や文化部の地域祭りや施設の訪問発表を行う。</p> <p>イ) 学校からの情報発信を効果的に行う。</p> <p>ア) 校内や地域での「美化運動」や「あいさつ運動」を展開する。</p> <p>ア) 福泉南中学校、福泉中央小学校、桃山台小学校との連携、泉北高等支援学校との交流を行い学校相互の理解を深め小中高が一体となって生徒の成長を見守る。加えて、プール学院大学等との高大連携のさらなる活性化を図る。</p> <p>ア) 生活指導を通じてルール遵守の必要性を教え卒業後も信頼される西高生を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「西高カップ」の参加中学生累計1,600人以上を維持する (H29:1850名) ・ 「学校行事に積極的に関わっている」の肯定的評価70%以上をめざす (H29:69.5%) ・ 近隣小中学校に出前授業(水泳講習等)やAED講習を2回以上実施 ・ あいさつ運動、清掃活動を合計年40回以上行う (H29:35回) ・ 地域交流事業年間20回以上 ・ プール学院大学との高大連携事業を体育コースにおいて継続実施をする。 ・ 校則・規律遵守を指導し、遅刻累計2,000件以下をめざす 	<p>(1) ・ 「西高カップ」の参加中学生累計ソフトテニス部門500名、サッカー部門800名、バレー部門400名 計1700名 (◎)</p> <p>・ 「学校行事に積極的に関わっている」の肯定的評価69.3% (○)</p> <p>・ 近隣小中学校に出前授業2回 (○)</p> <p>(2) ・ 生徒会執行部による挨拶運動50回、11月に近隣の清掃活動を行った。(◎)</p> <p>・ 地域交流事業については、台風被害等により昨年よりも回数が増えたものの、質感はあがった。(○)</p> <p>・ プール学院大学改め、桃山学院教育大学と協定を結び、高大連携事業を体育コースの授業にて継続実施をした。(◎)</p> <p>・ 常習生徒に対して恒常的に指導を行い、遅刻累計を2183件まで減らした。(△)</p>